

勝浦支部・津田沼支部で定期委員会開かる



82,4,8
No. 1013
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆(0)五三(七)七二〇七

三里塚・反合春闘を闘う

四月二日勝浦支部、五日津田沼支部において、定期委員会が開催されました。今日、「行革」・臨調攻撃をはじめ、国鉄労働運動・労働者に対する連日の反動キャンペーンによる国鉄労働運動解体の攻撃が強められています。委員会はこうした反動攻撃に対し、三里塚・反合を闘う労働運動の拡大・強化にこそ勝利の道があることを確認しました。勝浦・津田沼両支部通信員からの報告を掲載します。

労働運動の原則にたつて闘う (勝浦支部委員会)

勝浦支部第四回定期委員会は、四月二日、十時より運転区講習室において開催され、経過報告・当面する闘争方針と八二年度暫定予算を確認し、支部全体の意志一致をかちとった。

委員会には、本部より水野副委員長が来賓として参加、「連日にわたる国鉄の『タルミ』『カラ手当』キャンペーンは、『現場管理者の無能と労組のゴリ押し』を国民に植えつけることにより、『国鉄赤字』の原因が国鉄労働者にあるかのように描き出し、国鉄労働運動を解体しようとする政府支配階級の攻撃である。このことにより、職場での闘いの一切を否定し、今日まで闘いとってきた職場慣行を一方的に剝奪するためのものである。職場闘争を強め、労働運動の原則に立って闘おう」とのあいさつを受けた。

次いで支部執行部より、昨年支部大会以降の経過・八二春闘を中心とする当面の取組みと、八二年度暫定予算が提案され、活発な討論が行われた。質問は、内達一号改「正」と団交経過について、十一職群張り付け問題、木原線存続の見直し等が出され、それぞれ本部・支部より答弁を受けた。委員会は執行部提案を全員の拍手で確認し、窪田支部長の団結ガンバローをもって終了した。

不当捜索への怒りに燃え、活発な 討論を展開(津田沼支部委員会)

津田沼支部は五日、八二春闘方針の確立に向け、支部定期委員会を開催した。

委員会は、委員・傍聴者ら三五名を結集し、政府・当局の国鉄労働運動解体攻撃への怒り、権力による不当家宅捜索に対する怒りのこもった討論のち、八二、三里塚・反合春闘方針・八二年度暫定予算を決定した。委員会は議長に永慮君を選出。冒頭、山下支部

長は、「今日の情勢は、国鉄と三里塚をめぐる攻防が最大の焦点となっている。三・六、三・二八大結集とりわけ、労働者本隊の二千名をこえる大決起こそ、軍大化―改憲を阻止し、反合闘争勝利への突破口を切り開いたものだ」「動労『本部』革マル・国労中央の屈服をのりこえ決起している労働者の力を組織するものこそ動労千葉だ」「三・二七権力による不当弾圧―デッチ上げ家宅捜索を粉碎し、八二、三里塚・反合春闘を断固闘おう」とのあいさつ、次いで、来賓の吉岡本部組織部長・田中本部青年部長があいさつに立ち、国鉄労働運動をめぐる攻撃の実態と狙い、動労「本部」革マルの犯罪性を明らかにした。

この中で両氏は、「攻撃に対し闘う姿勢を堅持する事の重要性」を強調すると共に、我々の闘いは、①職場抵抗の闘いを断固としておし進めること ②国鉄労働運動全体をゆり動かすような戦略的反撃体制の確立―第二・第三の八一・三をやれる体制をつくり出す事であり、これと ③三里塚を軸とした闘う労働者の全国潮流を創ること ④世界・日本でわき起る反戦・反核の闘いに決起し労働運動の大高揚をつくり出す事を結合させることである。これが戦争に向け総力を傾ける政府権力との力関係の逆転を闘いとる道だとの方向を提言した。

経過・方針提起を受けたあと、春闘、「ヤミ・カラ」キャンペーン、動労「本部」の屈服・産報化全不当家宅捜索の問題等について怒りと熱気のこともった活発な討論が行われた。

委員会は、「政府・権力・当局・動労『本部』革マルが一体となり、今では右翼すら公然と暴力的敵対に出て来ている中で、絶対に職場を、国鉄労働運動を守り、攻撃をハネカエすんだ」との気迫のこもったものとして大成功をかちとった。最後に、春闘・予算・スローガンを満場一致で採択。組合歌合唱・団結ガンバロー三唱で終了した。